

4792号

2010年11月17日

伝書鳩

全国一般労組・全国協議会
安倍川製紙労働組合
静岡市葵区田町3-5-6
電話 054-271-7302
岩淵構内電話 340
abekawarouso@room.ne.jp

東海王子紙業に話し合いを求める

職場の問題を



積極的に解決しよう

東海王子紙業は今年の6月に新しい専務に交代しました。そして10月に部長も新しい人に代わりました。安倍川労組はこの新しい管理者との話し合いを求めています。テーマは紙業の将来と職場の問題です。最近職場でつぎの様な話をよく耳にします。「何年も新入社員を採っていないね。」「60歳間近の年配者が多いのに会社はどうするつもりだか」というような話です。

職場の不安を取り取り除こう

一昨年、静岡製造所が閉鎖になり、多くの人達が岩淵に転勤してきましたが、しかしそれだけではあと数年で退職する人達の穴埋めは出来ません。こんなに新入社員を採らないと「またどこか閉鎖するの？それとも岩淵閉鎖？」など、あつてならない事を考えてしまいます。王子製紙や特殊紙は採用をしていると聞いています。紙業も早急新規採用が必要です。

技術継続の方針を持つ

安倍川労組員が働く東海王子紙業仕上げ一課の職場は60歳間近の人達が大多数です。このまま岩淵を存続するのであれば早急に継承者となる若い人達を採用していかないと大変な事になります。仕事の技術やノウハウはすぐ身に付きません、身に付けるには何年もかかります。年配者が辞める間際に次の人達を配属した場合、仕事の技術水準が保てません。ベテランがいる内に継承者を育てなければならなりません。

手つかずの改善

今、紙業ではその場しのぎに退職者を呼び戻したりしていますが、将来を見据えて若い人達を採用すべきです。



職場の問題としては、伝書鳩で幾度もお伝えしている特殊紙パッキング
職場問題、サイビノール問題、対策をまるで考えずに野放しにされている
加工紙パッキングの片段ボール包装問題など様々な問題を取り上げます。

ウラにつづきます→

人らしく働かせよう

特に問題に挙げなければならないのは特殊紙パッキングです。この職場は人員に見合わない仕事量で作業を行っています。その為に残業は当たり前という状態です。さらに全員同じ年間休日 104 日にすると職場が回らなくなり、その為旧蒲原自動車の人達や囑託の人達は他の人達と比べ休みがかなり少ないという状態です。



現実には4人で回している仕事(無理のない仕事のためには5人というのが現場の声です)ですが、紙業に要員(定員)という考えがないことから、勤務日によっては3人しか配置されておらず、実質的な「欠員状態」が早出・残業で埋められています。仕事がハードで残業が当たり前、休みが少ないと、人を人とは思っていない働かせかたが平然と行われています。

王子 G の一員としての社会的責任果たせ

安倍川労組はこの大問題を解決するために「特殊紙パッキング職場の人員増」を求めてきました。しかし紙業は「人は増やさない」と言い、その場しのぎの他職場からの応援で補おうとしています。

応援はいつでも来るわけではありません。根本的な解決にはなりません。さらに休日日数問題は通し残業で補おうとしました。これでは更なる残業増になり問題を悪化させるだけです(実際、早出・残業があまりに多くなることから断念)。

また先週、来春卒業者の就職内定が史上最低であることが新聞等で報じられました。こんなときこそ王子グループの一員として、「雇用」という企業の社会的責任を積極的に果たすべきです。

新しい管理者に期待

まだまだ問題はたくさんありますがこれらを新しい管理者と話し合います。前任の専務は現場を見ないという点で有名でしたが、安倍川労組は、この悪い前例を断ち切り、紙業との話し合いで知恵を出し合い、職場の改善を進めたいと思います。

話し合いは今週中にもたれると思います。その報告は後日の伝書鳩でお伝えします。